

二〇一四年一月二三日 開催

〔シンポジウム〕

TOEICと英語モジュール

神崎正哉、矢頭典枝、関屋 康、フィリップ・マーフィー、
ELI教員
(執筆＝矢頭典枝)

- パネリスト……神崎正哉(本学国際コミュニケーション学科語学専任講師)、矢頭典枝、関屋康(本学英米語学科教授)、フィリップ・マーフィー(本学 English Language Institute デイレクター、准教授)、ELI 教員(Nicholas (Nick) Canning, Caroline Hutchinson, Marnie Brown, Jacob (Jake) Breaux, Jason Ropitini, Carla Bridge, Shawn Hupka, Aurelle Treadwell)
- 使用言語……日本語、英語
- 司 会……矢頭典枝

【シンポジウムの趣旨】

TOEIC のリスニングの問題は、二〇〇六年より、アメ

リカ英語だけでなく、イギリス英語、カナダ英語、オーストラリア英語、ニュージーランド英語の音声で出題されている。日本の英語教育では標準アメリカ英語をお手本にしているため、それ以外の英語が聞きとりにくい、という声が聞かれる。本学は、東京外国語大学と共同開発で、世界の様々な英語の違いを学ぶ無料ウェブ教材を開発し、今般のカナダ英語モジュールの公開により、TOEIC で使われる五つの英語のモジュールが揃った。このシンポジウムでは、まず、本学で TOEIC を中心に教鞭を執っている神崎先生が TOEIC のリスニングの問題で使われている五つの英語の発音について概観し、英語モジュール開発に携わっている矢頭先生がその開発と意義について説明した。そして、本学 ELI (English Language Institute) デイレクターであるマーフィー先生より、



本学 ELI の先生方

ELI の英語の多様性についての説明がなされた後、英語モジュールに出演した、あるいはスクリプトを作成した ELI の先生方が自分たちの英語の特徴について論じた。

このシンポジウムは、英語モジュールを活用して TOEIC のスコアを向上させよう、というメッセージを発信するものであった。

【報告の内容】

TOEIC で使われる英語の発音——神崎先生

TOEIC の問題が二〇〇六年五月に改訂され、そのなかのリスニングの問題が、旧来のアメリカ英語 (US) だけでなく、イギリス英語 (UK)、オーストラリア英語 (AU)、ニュージーランド英語 (NZ)、カナダ英語 (CA) の五つの英語の音声で出題されるようになりました。これらの英語は大きく分けて、英国系 (UK, AU, NZ) と北米系 (US と CA) に分かれます。英国系と北米系の発音は明らかに違いますが、それぞれの中の英語は、私が聞いても区別が付きにくいのです。どの英語にも聞きやすい発音とわかりにくい発音があります。私は、イギリスに留学していたことがあります。学校の先生の発音はほぼ一〇〇%わかりましたが、スーパーなどに買い物に行った時の店員の話し方はわかりづらかったです。TOEIC のリスニングで使われる英語の発音は、どの英語であれ、「とてもわかりやすい」部類の発音です。なので、受験者はあまり神経質になる必要はありません。

(その後、TOEIC で実際に出されたリスニング問題を流し、どの英語なのか、聴衆に手を挙げて当てさせ、大いに盛り上がった。アメリカ英語とカナダ英語の発音は、ELI の先生方でも聞き分けられなかった。また、聴衆に聞かせた英語の「聞きやすさ」を尋ねたところ、「アメリカ英語とカナダ



神崎先生

英語は聞きやすい、オーストラリア英語は聞きにくい、という意見が支配的であった。)

KANDA×TUFFS英語モジュール——開発の意義と特徴——矢頭先生

グローバル化時代の現在、日本人は世界の多様な英語に接する環境にますます置かれています。日本人の海外渡航は今日ではごく普通のこととなり、アメリカ以外の英語圏への留

学や旅行も増えています。また、ビジネスの世界に目を向けると、日本の企業人は全世界に進出し、現地の多様な英語に接しています。

教育の現場においても日本人は多様な英語に接する機会が増えています。日本の英語教育ではアメリカ標準英語が規範とされていますが、現実にはアメリカ以外から多くの英語を母語とする教員が英語教育に従事しています。小・中・高等学校に配属される外国語指導助手 (ALT: Assistant Language Teacher) 招致の制度を例に挙げれば、彼らの出身国は、二〇一四年度、多い順に、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ、アイルランド、ジャマイカ、シンガポールでした。

大学においても学生たちは多様な英語に接触しています。神田外語大学では、現在、約七〇名の英語を母語とする語学専任教員 (ELI) が英語教育に従事していますが、彼らの出身国は、多い順に、アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドです。複数の外国人教員の多様な英語に触れて戸惑う学生たちから次のような声が聞かれます。(「イギリス人が書いたものを見て」learnの過去形はlearnedですよね。learnは間違っていますよね」、「オーストラリア人の先生が言うtodayがto dieのように聞こえる」、「アイルランド人の先生はbutをbotのように発音する。相当ナマッ

ている」など。

日本の中・高等学校の英語教育の現場では、いわゆる「アメリカ標準英語」が事実上規範となっており、CDなどの音声を含む教材や高校入試・大学入試もこれに基づいて作成されています。そのため、北アメリカ以外を出身地とする外国人教員の増加による現在の教室における英語の多様性は、学習者たちをしばしば戸惑わせます。例えば、「週末」は、アメリカ英語では“on the weekend”ですが、イギリス人教員が教えるといギリス式の“at the weekend”となり、前置詞も weekend の発音も異なります。生徒たちは、イギリス英語で覚えてしまうと、受験では間違いとなってしまうのです。

日本の英語教育界において英語の多様化が現実となった今、日本の英語教育に従事する人々は率先して英語の多様性を前向きに捉え、アメリカ英語以外の英語は「間違い」であるという認識を改めるときに來ています。「神田外語大学（KAN DA）×東京外国語大学（T U F S）英語モジュール」（以下「英語モジュール」）は、両大学の提携関係のもとで、日本人の英語学習者たちが多様な英語変種の違いを体系的に学習することを可能にするツールとして発案されました。これまでに、アメリカ英語、イギリス英語、オーストラリア英語、ニュージーランド英語、カナダ英語の五つのモジュールが公開され、現在、シンガポール英語の編集が進んでいます。来

年度はアイルランド英語とインド英語を手掛ける予定です。

英語モジュールは、東京外国語大学の二七言語のウェブ教材「T U F S 言語モジュール」で培われたハードとソフト両面の技術と数多くの英語ネイティブ教員を抱える神田外語大学の人的資源とを融合させ、大学レベルの学習者のみならず、社会人や中高生などの一般人をも対象とする画期的な教材です。資金面では、二〇一一年に神田外語大学研究助成を受けて始動し、二〇一二年、科学研究費（科研費）助成事業として採択されましたので、無料で配信されております。本学の専用サイトは「英語モジュール」で、東京外国語大学の専用



矢頭先生

サイトは「T U F S 言語モジュール 英語」で検索すると出てきます。

（最後に、公開された英語モジュールのいくつかの動画を見せながらデモンストラーションを行い、未公開のシンガポール英語の動画も一つ見せた。）

アメリカ英語とイギリス英語——発音の違い——関屋先生

英語モジュールに出演したアメリカ人の先生方はもう本学にいないので、私がアメリカ英語について説明して発音し、イギリス人の Nick 先生にイギリス英語で発音してもらって、この世界の二大英語の発音の違いを学びましょう。

アメリカ英語の標準的発音は、東部（ニューイングランド地域）方言の発音やいわゆる「南部なまり」を除く、アメリカ合衆国の広範囲で話されている「一般米語（General American）」と呼ばれているものです。イギリス英語の標準的発音は、従来、容認発音（Received Pronunciation (RP)）と呼ばれてきましたが、英語モジュールのイギリス英語は「エスチュアリー英語（Estuary English）」と呼ばれ、ロンドンを中心とする広域で話され、RP に近い発音から、社会階層が低い人々が話すと言われるコックニーに近い発音までを含む英語です。

母音の発音で最も違いが顕著な点は、アメリカ英語では /ɪ/ 母音があり、イギリス英語では /i:/ 母音がないことです。前者を Rhotic、後者を Non-rhotic と呼びます。car, beer, bird といった単語で、アメリカ英語では /ɪ/ を発音しますが、イギリス英語では発音しません。

また、アメリカ英語の /ɔ:/ と /ɑ:/ の最小対立語が、イギリス英語では両方とも /ɑ:/ をもつ同音異義語になります。たとえば、court と caught の母音はアメリカ英語では異なる発音

になりますが、イギリス英語では同じ発音になります。また、pout, paw, poor はアメリカ英語では三つとも異なる発音になります。イギリス英語では三つとも同じ発音になります。

さらに、アメリカ英語の /ɔ:/ はイギリス英語の /ɑ:/ と比べると開口度が大きく、円唇化が少なく、舌の位置も低いのが特徴です。たとえば、talk, caught, saw はアメリカ英語では「アー」に近いですが、イギリス英語では「オー」に近いという特徴があります。

イギリス英語で対立がある単語の対で、アメリカ英語で対立がなくなる語もあります。例えば caught と cot の母音はイギリス英語では異なる発音になりますが、アメリカ英語では同じ発音になります。

イギリス英語もアメリカ英語も /æ/ に相当する音はありますが（例 bad, bag）Ask Words と呼ばれる一連の単語でアメリカ英語では /æ/ が使われ、イギリス英語では /ɑ:/ が使われます。ask, can't, fast, last の母音はイギリス英語とアメリカ英語ではかなり音が違います。

子音の違いで最も顕著なのは /t/ がアメリカ英語では /t/ と /d/ が母音の間に挟まれた時に、flap（弾音）と呼ばれる。日本語の語中のラ行音のように発音されますが、イギリス英語では flapping（弾音化）は起こりません。better, later, little の音を聞き比べましょう。



イギリス英語の Nick 先生とアメリカ英語の関屋先生

また、アメリカ英語の Yod-dropping という現象にも注目してください。舌先で発音する音 (t, d, s, z, l, d, n) の後に続く「j」はアメリカ英語では落ちる傾向にあります。イギリス英語では落ちません。たとえば、new はイギリス英語では「ニユー」に聞こえますが、アメリカ英語では「ヌー」のように発音する人が多いです。また、Tuesday はアメリカ英語では「トゥーズデイ」と発音することが多いですが、イギリスのエスチュアリー英語では、語頭の子音が破裂して「チューズデイ」のように聞こえます。

さらに、アメリカ英語では、(自然な話し方で) /n/ が /m/ と母音の間に挟まれた時に脱落する傾向にあることも顕著な違いです。例えば、twenty は「トゥエニー」、center は「セナー」のように発音されます。

音韻・音声レベルの違いではなく、単語レベルで違う音が使われるものもあります。たとえば、schedule はアメリカ英語では「スケジュール」、イギリス英語では「シェジュール」、tomato はアメリカ英語では「トメイロウ」、イギリス英語では「トマートウ」と発音されます。

ELI と世界の英語——マーフィー先生

ELI デイレクターのフィル・マーフィーです。私の方からは——イギリス英語で——ELI について若干説明し、英語モジュールに関わった ELI の先生方をみなさんに紹介します。

ELI は一九八九年に設立され、当時は四名の教員でスタートし、現在の六号館ではなく、四号館にいました。ELI の教員は、二〇一四年現在、SALC のラーニング・アドバイザーを含め、七三名在籍しています。私は ELI に一九九八年に入りました。今では、世界の様々な国と地域から ELI 教員は来ています。アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド、ジャマイカ、



マーフィー先生

スコットランドといった、英語を母語とする国民が多い英語圏だけでなく、ハンガリー、ロシア、韓国、シンガポールなど非英語圏からも熟達した英語教員が来ています。したがって、ELIには多様な英語が存在するのです。

では、英語モジュールに関わった先生方を紹介します。Caroline 先生と Nick 先生はイギリス英語モジュールに出演しました。Marnie 先生と Jake 先生はオーストラリア英語モジュールのスク립トを作成しました。Jason 先生と Carla 先生はニュージーランド英語モジュールに出演し、Jason 先生はスク립トをすべて作成しました。Aurelie 先生と Shawn 先生

はカナダ英語モジュールに出演しました。先生方が今から、それぞれの英語について話してくれます。

イギリス英語——Nick 先生、Caroline 先生

(Caroline 先生) イギリスは歴史が古く、イギリス英語の国内の地域差が極めて大きい国です。同じものを指すにも地域によって随分異なるのです。また、ケルト語やウェールズ語、また、元植民地の言語からも影響を受けていますが、今日は時間の関係で、「イギリス性 Britishisms」に焦点を当てます。

イギリス英語の語彙のいくつかは他の英語と異なります。たとえば(ズボンの写真を見せ)、これはイギリスでは trousers と言います。しかし、アメリカ英語などではこれを pants と言いますが、イギリス英語で pants とは下着のパンツを指します。だから、誰かが私に「Nice pants you're wearing! (いいパンツ、はいてるね!)」といった場合、私は下着のことを言われているのかと思い、一瞬戸惑います(会場から大きな笑い)。

また、fortnight という単語はイギリスで「二週間」という意味でよく使われるのですが、他の英語では使われません。私が日本に最初に来て、他の国の英語ネイティブの人たちと話していたとき、fortnight と言ったことがあります。それに対する彼らの反応は「ああ、シェークスピア? 古英語の

その単語、知ってるよ」というものでした。

さらに、pukka という単語は、ヒンディー・ウルドゥー語を語源とするのですが、イギリスでは「本物」、「良い」といった意味で良く使います。しかし、他の国の英語ネイティブの人には通じません。Wellies という単語もそうです。これは他の国では rainboots (雨靴) と言いますが、私は Wellies という単語は日本に来るまで万国共通だと思っていました。ちなみに、Wellies は、昔、Duke of Wellington という貴族がオシャレに雨靴をはいていたことから使われるようになりました。

(Nick 先生) さきほどアメリカ英語との比較においてイギリス英語の発音について説明しましたが、ここでは、自然会話で聞かれるイギリス英語の発音について、補足的に一つだけ説明します。それは「声門閉鎖音 glottal stop」で、What の t が発音されず、のどがつまった感じになります。日本の英語の教材には、非標準的な発音についての説明がないので、私が教えている学生たちもこの声門閉鎖音を聞いたとき、戸惑うようです。ロンドンでは、普通の会話でよく聞かれる話し方です。football, department, night, continent, right now といった単語で声門閉鎖音がよく起きます。

オーストラリア英語 — Marrie 先生、Jake 先生

(Jake 先生) オーストラリア英語について若干説明したあと、語彙について話します。オーストラリア英語は社会階層、教育レベル、出身地(都市か地方か)によって大きく分けて三つに分類されます。Broad(訛りが強い)、general(一般)、cultivated(教養ある)です。多くのオーストラリア人が general を話し、標準イギリス英語に近い話し方の cultivated はあまり聞かれませんが。

オーストラリア英語にもバラエティがあります。オーストラリア・アボリジニ英語は先住民の土着語と混ざった一つの英語変種です。また、様々なクレオール英語もあります。

(Marrie 先生) イギリス英語ほどの地域差はありませんが、オーストラリア英語にも語彙と発音の面で地域差はみられ、州によって異なるものもあります。語彙の例を挙げれば、「水着 swimming clothes」は、ニュー・サウス・ウェールズ州では swimmers、クイーンランド州では logs、ヴィクトリア州、南オーストラリア、西オーストラリアでは bathers と言います。

また、短縮形を好むのもオーストラリア英語の特徴です。例えば、Why don't you come over this arvo for a barbie? はどのような意味かわかりますか。arvo は afternoon、barbie はバービー人形ではなく barbecue (バーベキュー) の短縮形

です。ですから「今日の午後、バーベキューしにうちにおいでよ」という意味になります。また、present (プレゼント) のことを presie と言います。

また、人の名前や固有名詞もよく短縮されます。オーストラリアではみんなニックネームで呼ばれます。例えば私の名前はMarnieですが、両親はMamzaやMarnzieなど、自由にニックネームをつけて呼びます。Garyという名の男性はGazzaと呼ばれることがあります。また、地名もそうで、Melbourne (メルボルン) はMelbsと呼ばれます。MaccasはMcDonald's (マクドナルド) のことです。

不完全な比較形を使うことも特徴です。sweet as という表現をThat was sweet as. というように私たちは使います。これはThat was really good. という意味です。

Heaps という表現を私たちはvery (とても) という意味で頻繁に使います。Flat out は tired (疲れた) という意味でよく使います。オーストラリア英語で典型的な挨拶はG'day, mate. です。Gooday (G'day) はhello' mate はfriend のことで親しく呼び掛ける言い方です。chippy は construction worker 'My shout. はI will pay.' No worries. はNo problem. Cheers はThanks. です。これらオーストラリア英語固有の語と表現がモジュールの動画「挨拶する」に出ています。ご覧いただきましょう。(オーストラリア英語モジュール動画一を見る)



Marnie 先生と Jake 先生

ニュージーランド英語——Jason 先生、Carta 先生

(マオリの血を引くJason先生のマオリ語での挨拶が始まった。)

Tenā koutou
Ko Taranaki te māunga
Ko Waitara te awa
Ko Kuraupō te waka
Ko Te Whiti tōku tipuna
Ko Taranaki tōku iwi
Ko Parihaka tōku marae

Nō Aotearoa ahau

Ko James rāua ko Loris ōku mātua

Ko Jason Ropitini toku ingoa

No reira

Tana koutou, tena koutou, tena koutou, katoa

(英訳)

Hello to you all

The mountain that I belong to is Taranaki

The river that I belong to is Waitara

The canoe that I come from is Kurchaupo

My ancestor is Te Whiti

My tribe is Taranaki

My tribal communal land is Paritaka

I am from New Zealand

My parents are James and Loris

And, I am Jason Ropitini

And in finishing

Greetings, greetings, greetings to you all.

マオリ語の挨拶です。マオリ族でもマオリ族ではなくても、ニュージーランドではマオリ語を尊重します。英語は法的には定められていませんが事実上の公用語です。法的にはマオリ語が一九八七年に、ニュージーランド手話が二〇〇六年に

公用語として制定されています。マオリ語の英語への影響は八つの分野でみられます。地名、人名、食べ物、動植物、社会制度、挨拶、マオリの概念、マオリ語からの借用語です。私がニュージーランド英語モジュールのスク립トを書きましたが、モジュールに出てくるマオリ語の語を紹介しました。地名としては、私の出身地の「Taranaki」、また、マオリ語では Waikato や Waikangī など Wai が付く地名が多くあります。人の名前では「Hone がマオリ男性に多い名で、Arihana がマオリ女性に多い名です。家族 (family) の意味で whānau、食べ物 の例として kumara (スイート・ポテト) がモジュールに出てきます。Kiwi は「ニュージーランドでは「Kiwi という鳥」の名称、あるいは「ニュージーランド人」の意味で使われ、フルーツのキーウィーは kiwifruit と言います。ニュージーランドに来たら、覚えておくべきことばとして Kia ora があります。これはもともと「良い健康」という意味ですが、「こんにちは」や「よくやった」などいろいろな場面で、マオリ人に限らずよく使う表現です。

(Carla 先生) ニュージーランド英語は、移民出身国として古くから最も多いイギリスと南アフリカ、そして隣国のオーストラリアの英語の影響を受けています。発音面では、オーストラリア英語との類似性が最も強く、違いがほとんどありません。異なる点としては、肯定文であっても尻上がりで発



マオリ語であいさつする Jason 先生、左は Carla 先生

音されることがよくあるという点が挙げられます。また、*/e/* になり、例えば *egg* が「フッシュ」のように発音されます。さらに、*/a/* と */æ/* が同じように発音されるため、*really* と *rarely* が同じ発音になる傾向があります。

語彙に関しては、ニュージーランド英語特有のものがあります。たとえば、*bach* は別荘、*togs* は水着、*jandals* はビーチサンダル、*dairy* はコンビニ、*tramping* はハイキングです。では、これらの語が出ているモジュールを觀みましょう。(ニュージーランド英語モジュール動画21を見る。)

カナダ英語——Aurelie 先生、Shawn 先生

(Shawn 先生) Aurelie と私はオンタリオ州出身です。「カナダ英語」という語を最初に使ったのはプロテスタントの牧師だった Geikie 卿でした。彼は一八四〇年代にイギリスからカナダに渡り、現地の人たちが話す英語について「野蛮で蛇道な英語」と評価しました。カナダで話される英語は、イギリスの英語とはかけ離れ、アメリカ的な英語になっていたことがすでに一九世紀半ばに觀察されていました。

(Aurelie 先生) カナダは世界で二番目に広い国土をもつ国ですが、フランス語圏のケベック州と大西洋沿岸諸州の一部を除いては、驚くほど均質的な英語が話されています。これが「カナダ標準英語」で、カナダ人口の大半を占める中流層が話す英語です。東のトロントの人と西のバンクーバーの人が話す英語にほとんど違いはありません。カナダ人口三五〇〇万人のうち、フランス語を母語とするのは約七〇〇万人、また、英語もフランス語も母語としない移民とその子孫も約七〇〇万人います。カナダ最大の都市トロントは、人口の約四〇%が英語とフランス語以外の言語を母語としています。

(Shawn 先生) カナダ英語に関してよく言われるのは、オーストラリア英語やニュージーランド英語ほど革新的な語や表現はなく、どちらかといえば「つまらない」ということです。カナダ英語研究の先駆者として知られる *Andrew* は、カナダ英語

について「イギリス英語とアメリカ英語とは異なる特徴をもつ一方で、両者のブレンドである」と評し、「カナダ英語の特徴は語彙に最も見られる」と論じました。例えば政治用語としてカナダでは自由党 (Liberal Party) のことを Grit と呼び、選挙区のことを riding と言います。

(Aurelie 先生) また、スポーツでは、カナダの国技の一つ Lacrosse はカナダ固有の語として知られています。もう一つの国技 hockey はカナダで最もポピュラーなスポーツで、hockey 用語も普通の会話で使われます。例えば slap shot は「強打」、to deke は「だまし討ち」という意味で使います。

(Shawn 先生) 食べ物については、ポテトフライにチーズの凝乳とグレービーソースをかけた Poutine がケベック発祥のファーストフードとして知られています。またリングゴの McInosh という種類はカナダの品種として知られ、Mac と呼ぶ人もいます。カナダ人はドーナツの消費量が世界一高いといわれるくらいドーナツ好きで、カナダのドーナツ屋 Tim Hortons は人気です。そこで食べる小さめのドーナツは Timbits と言われ、カナダ特有の単語です。そして、カナダ特有のコーヒーマシンの飲み方は double-double で、砂糖とミルクを二つずつ入れる飲み方です。

そして、何よりも私たちカナダ人の話し方の特徴づけるのは eh? という間投詞です。eh? をやたら言う人がいたら、そ



Aurelie 先生と Shawn 先生

れは間違いなくカナダ人です。“So I think our time’s up, eh?” (笑)。

質疑応答

●「World Englishes のいわゆる第三の円「拡張圏」(日本のように英語を外国語として学校教育で教える国々)の英語の音声も TOEIC で将来的に使われるようになるのでしょうか。」(英米語学科三年男子学生より)

「個人的にはそうなればいいと思いますが、TOEIC から

は何も方向性は示されていません。ただ、TOEFLジュニアという新しい試験では、アメリカ英語だけでなく、イギリス英語とオーストラリア英語の音声も使われていますので、将来的には拡張圏の英語も使われる可能性もあります。」(神崎先生より)

●「つい最近ロンドンに行って来たのですが、若い世代のイギリス人がアメリカの表現を使うようになっていっているのではないかと、という印象を受けました。例えば、アメリカ英語でよく使う awesome という語をよく耳にしました。イギリス英語のアメリカ化はみられますか。」(一般来場者より)

「アメリカ英語に限らず、他の英語変種の影響を受けているのが私にも観察されます。例えばオーストラリア英語の No worries を私たちはよく使うようになりましたが、これはイギリスで流行ったオーストラリアのドラマの影響かもしれません。」(Nick 先生より)

「ニュージーランド英語にもアメリカ化が見られます。アメリカは世界的なヘゲモニーですので、メディアを中心として他の英語圏にもアメリカ英語の影響を及ぼしています。」(Jason 先生より)

「英語はもともとフランス語など様々な言語の影響を受けてきましたので、イギリス英語がアメリカ化されてきた、といってもイギリス人はあまり気にしないのです。」(Caroline

先生より)

閉会のことば——矢頭先生

英語モジュールは本学と東京外国語大学の多くの関係者によるチームワークで開発しております。英語の多様性が日本でも顕著となった現在、メディアでも取り上げられ、今後、どんどん注目を集めて行くと確信しております。現在開発中のシンガポール英語はかなり特徴があり、公開されたら話題になると思います。その後、アイルランド英語、インド英語と開発を進めていきますが、今後も英語モジュールの進化を見守ってください。